

序 文

未曾有の大災害となった阪神・淡路大震災から約一年半が経過しましたが、来る9月には、いよいよ阪神高速道路神戸線が全面開通に至る予定で、これで鉄道・道路をはじめとする交通網が漸く震災前の姿に復旧することとなります。

現在、神戸経済も産業経済の動向を示す各種の経済指標から、全体として約8割程度の回復を遂げるところまでまいりました。

しかしながら、復興状況をみますと、業種や規模によって格差が広がってきており、大手を中心とする製造業がほぼ復旧している半面、来神客の激減により観光、小売、サービスなどの第3次産業は未だ5～6割程度の水準で低迷しているのが実態であります。

震災で損壊したビルの再建も復興を進める上で大きな課題となっております。とりわけ都心のオフィスビルはいわば神戸経済の顔とも言うべきものですので、ビル再建を順調に進めていくためにも、内外から牽引力をもった活力ある企業群を神戸に誘致・育成していくことが神戸経済の本格復興を遂げる上においても今後益々重要であろうと存じます。

そこで、本所では今年1月に神戸大学工学部の安田教授を座長に「都心ビル再建懇話会」を設置し、ビル建設に係る諸制度や再建に向けた打開策等について検討をお願いしたところであります。

今般、同懇話会での半年に及ぶ審議を経て当面の都心ビル再建策から、中長期にわたる魅力ある都心づくりにまで踏み込んだ大変貴重な提言を取りまとめて頂きました。

本所としましても、本提言に盛り込まれている内容ができる限り数多く実現し、都心ビルの早期復興につながっていくよう、今後、関係各方面に強く働きかけてゆく所存であります。

おわりに提言作成にあたり貴重なご意見とお時間を頂戴した「都心ビル再建懇話会」委員の方々及び関係各位に対しまして、心よりお礼と感謝を申し上げます。平成8年7月
神戸商工会議所 会頭 牧 冬彦